

令和5年度第3回さぬき市男女共同参画推進協議会 会議要旨

- 1 日 時 令和5年9月22日（金）14：00～16：00
- 2 場 所 さぬき市役所3階会議室
- 3 出席者 【委員】 石田委員、尾崎委員、柿木委員、金子委員、川地委員、黒澤委員、多田委員、筒井委員
 【事務局】 山下市民部長 山田課長 田村副主幹 山本主任主事
 株式会社 ぎょうせい（委託業者）
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議次第 1 開会
 2 会長あいさつ
 3 議事
 (1) 第3次男女共同参画プラン策定について
 (2) その他
 4 閉会

6 配布資料

- 資料1 第3次さぬき市男女共同参画プラン策定に関する中学生ワークショップ 報告書
- 資料2 第2次さぬき市男女共同参画プラン（改訂版）男女共同参画につながる取組状況調査
- 資料3 第3次さぬき市男女共同参画プラン第1章～第4章（素案）
- 資料4 第3次さぬき市男女共同参画プラン第5章施策の展開と行動計画（具体的取組内容）-案-
- 資料5 「男女共同参画社会」作品募集実施要項（川柳・俳句の部） ほか

7 議事の経過及び発言要旨

発言者	意見概要
	＜ 開 会 ＞（14：00）
事務局	ただ今から令和5年度第3回さぬき市男女共同参画推進協議会を開会します。はじめに、さぬき市男女共同参画推進協議会 黒澤会長からあいさつ申し上げます。
	＜会長あいさつ＞
事務局	会議の進行は、さぬき市男女共同参画推進協議会規則に基づき、黒澤会長にお願いいたします。
会長	まず、会議の公開についてです。本会議は、「附属機関等の委員の構成及び会議の公開に関する指針」に基づき、「原則公開」となっています。非公開の案件がな

	<p>い限り、公開とすることとします。まず、傍聴申請について、人権推進課長から報告してください。</p>
事務局	<p>現在のところ、傍聴希望はありません。</p>
会長	<p>今のところ傍聴の希望はありませんが、会議途中で傍聴希望があった場合には、随時許可することとします。</p> <p>はじめに、本日の会議についてですが、おおむね2時間程度を予定しております。本日は、特に【資料4】に関して皆さんから多くの意見をいただきたいと思えます。スムーズな進行に、ご協力をお願いいたします。</p> <p>本日、議事（1）において説明を聞くため、第3次さぬき市男女共同参画プラン策定支援業務に関する委託事業者「株式会社ぎょうせい四国支社」に出席を求めています。では、議事（1）「第3次男女共同参画プラン策定について」に入ります。まずは、8月4日に開催された中学生ワークショップについて、事務局から報告をお願いします。</p>
事務局	<p><資料1説明></p>
会長	<p>当日傍聴した委員の皆さんは感想などありますか。</p>
委員	<p>途中までの参加となったが、司会進行がよかったと思った。話し合いは、最初打ち解けないような感じもあったが、アイスブレイク後は、徐々に話ができるように思う。市内の中学生が一堂に会して話す機会はほとんどないので、話すこと、意見交換が大事だと感じた。おもしろいと思ったのは「校長先生が男性ばかりで女性がない」という意見だ。よく見ているなと感じた。小学校は女性の教員が多いと思うが、校長先生は、教員の男女比率でみると男性が多い気がする。意見の中で特に参考になったのは、アンケートだ。大切なものがあるので分析してもらいたい。参考になるものがあると思う。残念だったのは、この日部活など他の行事と重なっていたのかもしれないが、参加した男子生徒が4人だったことだ。男女共同参画なので、男子生徒の意見もほしかった。いろいろなやり方があると思うが、例えばグループの中にアドバイザーのような人がいて、口出しせずにとっとした助け舟を出す、市内の高校生が各グループに1人いて助けるといったような工夫があれば、奥が深く、いろいろな分野について意見が出るように感じた。次回以降は、子どもたちの素直な意見を引き出す工夫があれば、もっとよくなると思った。</p>
委員	<p>終始、最近の中学生はしっかり考えているなと感じていた。かつて自分たちが中学生だった頃よりもいろいろなことを考え、情報を持っているのではと思った。男子生徒が少なかったことについて。前回のワークショップは男女半々だったが、同性同士で固まり意見を言いづらそうにしている感じを受けた。しかし、今回各グループに男子生徒が1人ずつだったので、生徒の素直な発言が出ていたように思う。何を言っても大丈夫な場になっていた。また、前回は、各グループに人がついたのだが、ついた人によっては、方向性をアドバイスしてしまったりと、口を出さないというのが難しいようで、大人がコントロールしたようになってしまった。そのため、今回は大人をあまり入れない方がよいと思った。</p>
会長	<p>実はアイスブレイク後も中学生の緊張が解けていないように感じていたが、感想を読むと「アイスブレイクが良いきっかけになった」とあったのでよかった。話し合いを何度も重ねていく中で、中学生の声が聞けてよかった。また「他の学校の人</p>

	と話す機会がなかなかないので、他の学校の様子が聞けてよかった」という感想があったが、他の人の意見を聞く大切さを改めて考えていくのはよかった。13 ページは、各グループがプランに反映させたい意見を選んだものだが、プランの中に反映させることで、皆が作ったプランだということを中学生たちに報告できるような形にできるとよいと思った。
会長	では次に、資料1について、気になったことや質問があれば、伺いたい。
委員	意義のあるイベントだったと思う。個人的には、ワークショップの中で何か1点でもよいので、それはなぜかと次々に切り込んでいき、中学生なりの問題認識につなげていくことができればより有意義なワークショップになると感じた。例えば、女性が家事をするというところから、なぜ女性が家事をして、男性はしないことになってしまったかというように話を進める。それは報酬が男性の方が高いため、男性が働いた方が生活は豊かになるからだとすると、逆に、女性の方が高いとどうなるかとさらに進める。そこには、男女で給与差のある雇用関係も出てくるだろう。また、男女が平等に家事をするようになるその解決法として、家事を当番制にするというのがあるが、それはどうかなどと、なぜそうなるかと話を進めていき、中学生にこれまで当たり前だったことは本当に当たり前なのかと問題提起をし、中学生なりにその問題を認識する機会とする。そうすれば中学生たちが大人になって、どうやっていくかのベースになるのではないかと。
委員	14、15 ページで女子生徒、男子生徒どちらも、自分が感じていることと社会の状態や考え方は違うという認識で、いろいろな人の意見を知ることがよかったということが書いてあった。子どもたちの認識は環境によって変わってくるので、男女平等が本当に進んでいるのか、現状について子どもたちももう少し知らないといけない。子どもたちが進路で悩みや不安があっても、学校側も具体的な進路指導が難しいということが分かった。行政も一緒に考えたらどうかと思った。
委員	必ずしも結婚しないのがいけないとは思わないとか、必ずしも子どもを持たないといけないとは思わないといった、中学生のアンケート結果が気になった。そういうのをワークショップの題材にするというのも、つながりがあり関連もあるので良いのでは。その中で今こういう傾向になっている、例えば結婚はしなくてもいい、また子どもはほしいけれどシングルマザーで、といった話も出るかもしれない。せっかくアンケート結果という題材があるので、使っていったらどうか。
会長	確かにアンケート結果にはいろいろな題材がある。今回は題材にはしなかったが、結果も含めて一人一人が生きやすい形で、選択できるようにという話をして、それが多様性につながるとまとめて話した。
事務局	続いて、現行の第2次男女共同参画プランの令和4年度の関係各課の取組について、事務局より説明願いたい。
事務局	<資料2説明>
会長	今の事務局からの説明に対し、質問はありませんか。
事務局	<質疑無し>
会長	続いて、現行の第3次男女共同参画プラン素案について、事務局から説明をお願いします。

事務局	<資料3、4説明>
会長	今の事務局からの説明に対し、質問はありませんか。
委員	資料4の9ページ新規案について、これは10年前からやっていることだと思うが、今回新規案として出ている。具体的に教えてもらいたい。
事務局	現行計画では明記されていなかった内容です。国や県でも、新たな項目として、生活に困難を有する女性への支援が明記されているため、さぬき市も明記すべきではないかと考え、新たにピックアップしたものです。ずっと取り組んでいることではありますが、プランに明記するのは新規となります。
委員	令和6年度から始まる「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」とは、関係ないということか。
事務局	関係はあります。
委員	案では、福祉総務課、子育て支援課が担当窓口となっているが「生活困窮者自立支援法」に基づく相談支援は、社会福祉協議会がやっていると思う。関連はどうなるのか。
事務局	社会福祉協議会と市の窓口である福祉総務課の連携について、詳しく話をしていきたいと思っています。
委員	資料4の2ページ男女平等意識を育む教育では「全ての保育施設」となっているが、教職員等への啓発は「全ての教育、保育施設」となっている。どちらも学校が入るので「全ての教育、保育施設」の方がよいと思う。
事務局	令和4年度の取組から抜粋したもので、限定する意図はありません。担当課に確認し、具体的な取組について詰めていきます。
委員	第2次男女共同参画推進プラン（改訂版）の目標値の設定方法について教えてもらいたい。
事務局	まず、国や県でも目標を設定しているので、自分たちでできそうなものをピックアップしていく。また、市の課題に応じて、独自で考え、そこに協議会から出された意見を踏まえて完成させたという経緯があります。
会長	ではここからは、資料3、4についての意見を伺います。なるべく全員から伺いたいと思っています。今後各課にヒアリングを行い、内容を詰めていきたいと思しますので、具体的な取組についてでも構いません。様々な視点から意見をお願いいたします。
委員	資料4の2ページ教職員等への啓発に「人権や同和問題について」とあるが、「差別問題」という表記にするのも一つの手だと思う。
委員	資料4の4ページ、政治への関心を高める広報・啓発に「ワーキングチーム」というのがあるが、これはどういうものか。また、その下にある附属機関等への女性の登用の「附属機関等」は何か教えてもらいたい。

委員	併せて質問したい。同ページの政治への関心を高める広報・啓発に「投票の大切さや簡単さ」とあるが「簡単さ」という言葉がピンと来ない。新聞には「スマートさ」「便利さ」という言葉が使われていたので、考えてもらいたい。
事務局	議会の議事内容を、ケーブルテレビで番組にして放送しています。番組作りについての話し合いの場を、ワーキングチームと表現しています。メンバーは、議会の各委員会の長です。附属機関は、市のホームページに掲載していますが、例えば、防災会議や男女共同参画推進協議会です。様々な審議会等を総称して、附属機関等と呼んでいます。また、「簡単さ」という表現について、これは体験者がアンケートに記載した言葉ですが、想像していたよりも簡単に投票できると知った、という意味ではないかと考えます。
委員	議会のワーキングチームが積極的に周知しているということ、せっかくなので同じ動画を YouTube で配信した方がより手軽に見てくれるのではないかと。動画は5分くらいがよい。辛辣なコメントが来るかもしれないが、何が分かったかや、何が分かりにくかったか分かると思う。せっかくなワーキングチームがあるので、やってみてはどうか。
委員	YouTube はいいと思う。広報の仕方を柔軟に考えた方がよいと思うことがよくある。例えばキャンペーンにおいては、ショッピングセンターで啓発物を配布するのが従来の方法だと思う。しかしそれではそのときショッピングセンターを利用していただけが知ることとなる。もっと広い範囲の人が知ようになるにはどうしたらよいか。例えば YouTube だと、ダイレクトに若い人に伝わるだけでなく、おもしろくないと見てもらえないから、反応がすぐ分かるのでよいと思う。また、資料4の7ページ仕事と子育ての両立支援について、待機児童対策として、放課後児童クラブの受け入れ対象学年を小学6年生まで拡充しているが、十分なスペースとはいえないのではないかと。規則上は大丈夫といわれているが、子どもたちにとって幸せかどうか疑問だ。子育て支援課と教育委員会でももう少し擦り合わせができないか。高学年においては、放課後児童クラブ、というのではなく子どもたちが自由に行くことのできる居場所さえあればよいのではないかと。高学年は中学生になる準備段階でもある。両親が日中いないと不安だとは思いますが、自立するための段階を踏む、どうすれば子どもが自分で物事を考えて成長していけるか、もう少し考えてみてはどうか。その他ハラスメントという言葉は、労働関係では使われているが、普段の生活、PTAや自治会の中でも、ハラスメントがたくさん起きている。これまでは考えなくてもよかったのかもしれないが、そういうときの救済や対応等、労働関係以外でもハラスメントについて考えることができればよいと思っている。
委員	資料4の8ページ女性相談の充実について「DVやデートDVの防止についての意識を高め」とあるが、防止についての意識を高めるには教育が必要なので、教育やDVを含めたハラスメント全体の項目を入れる。さぬき市内の高校で、県がデートDVの取組をしているので、別項目を作るか、ここの担当課を増やすなどして、職場以外のハラスメントの問題に関する項目があればよいと思った。
委員	放課後児童クラブについて。5、6年生は、発達段階に応じて自立や助け合いを自分たちで考えれば、放課後児童クラブが楽しいものになるのではないかと。自身でも子どもの居場所づくりをやっているが、最近は子どもに司会進行を任せたりしている。全部こちらでやっていたら子どもが育たない。拡充しても、やり方や内容を変えていき、小さなエネルギーで多大な効果を得られるような工夫をしてもらいたい。資料4の8ページ女性相談の充実について、女性だけだろうかと思っている。

委員	<p>世界的に性加害の問題もある。女性に限らないような気がする。</p> <p>放課後児童クラブの支援員について、現状は未確認だが6、7年前に支援員として働こうと思い確認すると、週に入れる時間等の制約があり、それ以上働くことができないので、職業として選べないと正直感じた。フルタイムで働けるのは1人で、残りは週に数時間しか働けないと聞いた。支援員の育成につながらず、子どもたちが楽しくないという負のスパイラルになっていないか。もう一度仕組について考えてもらいたい。</p>
委員	<p>食生活改善推進協議会では、年に3、4回、放課後児童クラブや児童館で子ども料理教室を実施しているが、昨年は小学5年生まで、今年は6年生まで拡充と子どもたちが増えたので、参加する子どもの人数が急に増えている。長尾公民館は特に顕著で、狭い所で声を出しているため、横のカルチャー教室ができなくなっている。料理教室だと包丁を使うため、2年生と6年生を一緒にというのは、安全面等で難しく、また、開催が近くなってから人数変更等、いろいろなことでばたばたする。今のところは何もないが、これから先、何か起こりはしないかと心配している。もう少し子どもたちの発達段階を考えてもらいたい。</p>
委員	<p>資料3の29ページ基本目標2基本方針4、誰もが活躍できる環境づくりについて、前回は政策方針決定の場における男女共同参画の推進だった。「決定の場に女性がいるかどうか」が大きな課題だと思っているので、この課題を施策体系の中に出せないか。他の自治体や国のプランでも、決定の場に女性を、というのが大きい。さぬき市でも審議会の女性委員の割合は増えているものの、企業では女性管理職の割合は増えていないというのがあるので、見える化する意味でもどこかに入れてもらいたい。</p>
委員	<p>どの主要施策でも様々な形で広報するが、ワーキングチームを作り、全体的に広報をどうするかを横断的にやってもらおうと、いろいろな知恵が出てくるのでよいと思う。先ほど提案のあったYouTubeを使う、高齢者への広報は紙を使うなど、横断的に考える。男女共同参画の視点でどう広報していくかも庁内の体制として指針が一つあるとよい。また、資料4の5ページに市女性職員へのキャリア形成支援とあるが、女性だけに研修をやってもよくない。男性の管理職を含めた上司への研修もセットでやらないと、なかなか進まないと思う。先ほど高校でデートDVについて取り組んでいる話が出た。学校が関係する取組は全て、学校教育課や教育委員会を担当課として入れてもらわないと難しいと思うので、学校教育課や教育委員会が自分事として考えてもらえるような形で進めてもらいたい。資料3の24、25ページで、基本目標ごとに重点項目が示されているが、今後皆と話し合っていけばよいと思う。全て大事だが、今回はこれを重点的に行う、強化していくためにはどうしたらよいかをもう少し協議会や庁内で話し合っていくことも必要だと思う。</p>
委員	<p>資料3の1ページ社会的背景や2ページの男女共同参画社会の定義について気になった。1ページの社会的背景の文章は、当たり前な表現になっているのではないかな。もう少しきつい、危機感をあおるような「取り組まないと大変なことになりますよ」というような文言があってもよい。例えば事業者は、このまま人口の減少が続くと、男性も女性も業務できるような環境を整えていかなければ、人が来てくれず生き残れないので、必然的に取り組まざるを得ない。また同3ページのジェンダーギャップ指数を見ると、日本は教育では上位に引けを取らないが、経済活動の参加と機会、政治への関与が上位と比べて低いので、このような順位になっている。この2つのポイントについての具体的な話、例えば政治への参画、投票率の低さ等といった、もう少し踏み込んだ表現をした方がよいと思う。取組は、上滑りになら</p>

	<p>ないようなものにしていかないといけない。昨今、本質が変わっているのに、それを換えられる人と換えられない人がいて、取組を少しずつでも進めて行けるかどうかで大きく差が出ている。大義として進めないといけない男女共同参画と、実態としてどう考えないといけないかの整合性を取りながら、一つでも二つでもよいので、本質的なものに踏み込むことを望む。</p>
委員	<p>中学生のワークショップで出た意見が個々の意見で終わるのか、それとも学校やクラスに持ち帰って話すのか。子どもを男女共同参画の真ん中に置くのであれば、ワークショップの前に自分たちの学校、クラス、家庭ではこうだったという集計をしてから実施すれば生きてくる。今後そういったことを考えてもらえれば、子どもたちがよい意見を持ってきて、終わったら持ち帰って広げる。家庭や社会に生かせればよいと思っている。</p>
委員	<p>いろいろな人がいるので、まんべんなくというのは行政も難しいと思う。大義と実態、どちらかに偏り過ぎると反対意見が出てくる。だが穏便に事を運び過ぎると何をやっているのか分からない、ということになる。男女共同参画は全部に網がかかるような話なので、もう少し踏み込んでよいテーマだ。</p>
委員	<p>危機管理課に、現在さぬき市でどのくらい準備ができているのかを聞いてもらいたい。社会福祉協議会の福祉委員を集めて、避難が困難な人を把握しようと進めているが、その人たちを連れていく場所も人もいない。元々の発想はよいと思うが実用的ではない。特に危機管理課には頑張ってもらわないといけないが、チェックする所がない。そもそも危機管理課に女性がいらないというのは問題だ。計画に入れるかどうかは別として、どのくらい設備を整えた、または整えようとしているのかという目標を持ってもらいたい。</p>
委員	<p>私も、危機管理課に女性職員がいるかどうか聞こうと思っていた。資料4の11ページ防災対策への女性の参画促進に「防災体制の確立に取り組みます」とあるが、防災体制の組織の中に女性が今どのくらいいるのか。今後もっと増やすとは思いますが、女性の役割が固定化されないようにしてほしい。地域でも防災会があるが、炊き出しよりも誘導がいいと思っても「女性は炊き出し」という感じで決まっていく。言い方は考えないといけないと思うが、危機管理課や防災体制の組織には、男女の役割を固定化して進めないやり方を取ってもらいたい。危機管理課も、地域の防災に緊張感を持って取り組んでもらいたい。市全体で考えてもらいたいというのが願いだ。</p>
委員	<p>庁内の連携、市と県の連携の強化を基本理念に入れてもよいのではないかと。防災は、基本方針9防災分野における男女共同参画の推進と独立させているので、話をしているのだと思う。計画を作るにあたっては、当事者意識を持ってもらえるよう期待していることを一緒に伝えてもらいたいと思う。危機管理課以外の各課にも女性がいるのか、男女バランスがどうか気になった。職員の構成や人事の育成の方法等が気になった。</p>
委員	<p>資料4の8ページ暴力根絶に向けた広報・啓発について、以前、児童相談所やシェルターに勤めている友人に、DVを減らすため市町村が法律の範囲内でできることで何をしてくれると嬉しいか尋ねると、「立て看板で189（児童相談所虐待対応ダイヤル）や#8008（DV相談ナビ）の番号を知らせる」という回答があった。紙やティッシュだと捨てられるが「困っている人はこちらに電話」と書かれた、誰も剥がせないものがあればよいとのことだった。車の運転をしていると、意外とそういうものは見る。DV防止運動期間のときだけでもかまわないので、市内の小中学校</p>

委員	<p>に 189 や #8008 の垂れ幕、横断幕を設置できれば、ちらしやポケットティッシュをもらうよりも、子どもも意識するし保護者も見るとはではないか。全部の学校だと費用がかかるので、順番に設置していくというのもある。同じことをやり続けて効果があまりないようなら、違う方法を試してもらいたい。できれば皆が見られる、剥がしたり消したり捨てたりできない広報や啓発にチャレンジしてもらいたい。</p> <p>高松市の認定NPO法人で、法テラスが協力して、シングルや離婚を考えている方に向けて法律的な相談等を行っているそうだ。人口5万人程度の市町村でも離婚についての相談会を自治体がやっているのを目にする。法的なことや公的な支援の説明もある。一方、さぬき市では、社会福祉協議会が月に1回やっている法律相談ならどうかという感じだった。高松市ではこども家庭課がやっているが、さぬき市ではどの課がやるのか分からないにせよ、市がそういうことをしているだけで、離婚は悪いこと、恥ずかしいことではないんだというメッセージにもなると思うので、実行してもらえたらと思う。</p>
委員	<p>離婚相談のような個別のテーマの相談というのがあるが、一方で、もしかしたらDVや体についてのことになるかもしれないが、自分ではうまく言語化できない、もやもやした相談事もあるので、「もやもや相談」といったものがあったもよいのかもしれない。DVだと周りは思っても、自分は認めたくない人もいる。そういう人が気楽に相談できる窓口があってもよいと思った。</p>
委員	<p>例えばさぬき市が「シングルマザーが住みよいまち」といったコンセプトで施策を実施すれば、移住問題の解決につながる、ということもあるかもしれない。シングルマザーが働ける環境を整え、市として支援もある。ピンポイントに絞り込んで、移住促進を図るということも考えられるかもしれない。テーマによってはできないかもしれないが、話題性等で普及させる取組があってもよい。商工会等の関係団体と連携しながら、地域のイベント等で、例えば男性を集めて、誰がおにぎりを一番きれいに握ることができるかを競う選挙権をやる。また具材だけ用意して、「よーいドン」でカレーを作ってもらって大会を開く。時にはとんでもないカレーができあがったりするだろうが、笑いを取りながら、互いの大変さを理解していく。そういった、テーマによって視点を変えてもよいのではないか。これまではそういうのがないので、切り口としては大変おもしろい。</p>
委員	<p>男女共同参画って固い、自分とは関係ないという面があるので、そういうイベントが起爆剤になるといいと思った。</p>
委員	<p>資料4の10ページ市民の健康づくりの推進で、薬物防止についての啓発もやってもらいたい。新型コロナウイルス感染症が落ち着いて、例えば若い人が海外に行く機会が増え、大麻が合法となっている国で使用し、帰国後も大麻を使用するケース等広がっていると聞く。日本では法律で規制されているから吸えないというのではなく、医学的見地から常習性や副作用について啓発してもらいたい。</p>
委員	<p>資料4の5ページ農林水産業や商工自営業への支援について、継続して農業をしている人への支援は、行政としてやっていないのか。例えば高齢等を理由とした放棄田など、農業人口が減っている。加えて、米の価格は下がるが、飼料や原料は上がるので、農業や畜産業は厳しくなっている。今後どうなるのかと思っているが、相談等突破口となる所があるのか。私たちの仲間は農協等で漬物等を出しているが、小さな組織でやっている。もう少し発展できるようなことがあればよいと思う。厳しい農業の実態について、行政にも考えてもらいたい。</p>

委員	啓発方法は本当に難しい。伝え方というのが、これから大切になってくる。
会長	ありがとうございました。事務局は、出された意見を踏まえ、プランの素案作成を進めてください。
	次に、(2) その他について、事務局から何かありますか。
事務局	<p><資料5説明></p> <p>また、次回は、11月27日(月)の開催を予定しております。ご多忙とは存じますが、是非ご参加くださいますようお願いいたします。</p>
会長	事務局から説明がありました。何か質問などはありませんか。
	<質疑無し>
会長	<p>本日の協議会はこれで終了です。</p> <p>最後に山下市民部長からあいさつをお願いします。</p> <p><山下市民部長あいさつ></p>
会長	<p>本日も活発な議論をありがとうございました。</p> <p>以上で、令和5年度第3回さぬき市男女共同参画推進協議会を閉会します。お疲れ様でした。</p> <p style="text-align: center;">< 閉 会 > (16:00)</p>